

いよいよ増税案の内容は大衆の生活

新聞五百圓生活は時代の潮流になつて來た、なんど何處へいつても赤字の話汗の結晶の時金帳も今はまつたく底を割り、アリーナや労働者も悲鳴をあげてゐる、そこへ又ぞろ増税に加へて来る二十五円からは郵便料金すら値上げだ、うつかりしては生きてゆけぬ世の中となつてしまつた、さて如何に大衆はこの苦に生き抜く? ——國民の負擔を公正にし徴税方法の簡素化するためといふのが税の引上げの口實だが果して負擔の公正であらう? 大衆の叫び労働所得の引上げたばかりか逆に二分跳ね上つて百分の二十と出た、おまけに基礎控除は去る二月に一人當り五十圓が二百圓に引上げられたばかりとあつて今回も動かされぬのだから、さてわれ(の)日常生活と關係深い税の増徴振りを覗いてみやう。

氣輕に一杯も出さぬ

一級酒は何ご一升四十圓也

大衆の勤労所得があがつたのに五割とあつたが今后廢止により

つれ綜合所得分類所得も上り合せると實に百分の九十七といふの定めから五割を値下げされる

高率、凡そ世界一の高稅が現出

される譯だ、次いで間接税は取

り税以外は全部引上げ、たゞ十

割超過は体面上面白くないとあ

つて物品税中の甲類奢侈品が十

割から十割に引下げられたと

は三十割が四十割と急上昇し四

割百十圓から百五十圓となつ

たし又藝妓の花代十二割も引

かれた、清酒も小賣一級で二十

三圓一升のものが四十圓と十七

圓も飛び入り昨年度からみると

かなぞとの叛反心は夢にも起し

得ぬ御時勢だ

は氣よくはゆけない、殊に美形

の眼にあらずとサントリーノ

は、その割合は四百十圓から百

圓の眼にあらずとサントリーノ

は、その割合は四百十圓から百

圓の眼にあらずと